

1978年出土の木簡



(4)

と記された折敷片があるが、内容はいずれも明らかにしがたい。

9 関係文庫

尾道市街地発掘調査概要

一九七九年

(志田原重人)

宮の内(忌宮神社)地区

- | | |
|---------|-----------------------|
| 4 調査担当者 | 甲元真之、山内紀嗣、伊東照雄 |
| 3 発掘機関 | 下関市教育委員会 |
| 2 調査期間 | 一九七八年(昭53)七月十五日～八月十四日 |
| 1 所在地 | 山口県下関市大字豊浦村一七四六 |

6	5
遺跡の年代	遺跡の種類
平安時代と中世	集落跡

遺跡及び木簡出土遺構の概要

中世の遺物が投入された井戸の中から、木簡が発見された。伴出

遺物として、土師器、古備前、常滑、木器がある。

8

木簡は完形で、全長三五・七cm、幅四・二cm、厚さ〇・四cm。墨書が認められるが、判読は未了。

9
関係文献

下関市教育委員会『長門国府II』一九七八年

(甲元真之、山内紀嗣、伊東照雄)

紺屋尻地区

1 所在地 下関市大字豊浦村字紺屋尻

2 調査期間
一九七七年(昭52)七月二十日～九月二日

3 発掘機関 下関市教育委員会
4 調査担当者 甲元真之、山内紀嗣、伊東照雄
5 遺跡の種類 遺物包含地
6 遺跡の年代 平安時代
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

土師器、須恵器、木器等を伴出している。
8 木簡の釈文・内容
木簡は二点発見されたが、断片であった。そのうち一点には墨書
が認められるが判読は不可能である。

9 関係文献
下関市教育委員会 『長門国府』 一九七七年
(甲元真之、山内紀嗣、伊東照雄)

1 所在地 福岡市南区字コクフ一一七〇一
2 調査期間 一九七七年(昭52) 一月~一九七八年三月
3 発掘機関 福岡市教育委員会文化課
4 調査担当者 二宮忠司
5 遺跡の種類 寺院跡(三宅廃寺)
6 遺跡の年代 奈良時代
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



遺跡は標高一mの沖積地に位置し、遺構として、瓦溜(雨落溝)とその北東部に東西二間×南北二間の総柱掘立柱建物、東に東西三間×南北四間の掘立柱建物、真北から約五度東にふれた溝とそれに直交する大小の溝二二条と多数のピットを検出した。瓦溜から老司工式の軒丸・平瓦と丸・平瓦等が出土し、奈良前期に位置付けられる。溝は三宅廃寺に関連する外周溝と考えられる。廃寺の内容、配置、規模に関してはなお不明であるが、この雨落溝を北東隅とし西南・南北に延びる西側に位置している可能性が考えられる。二間×二間×四間の掘立柱建物と溝は、奈良後期に位置付けられる。

木簡は三間×四間の掘立柱建物の外周をとりまく溝(南東隅)の合流する地点の底面より出土した。共伴遺物として瓦(平・丸瓦)、須

福岡・三宅廃寺